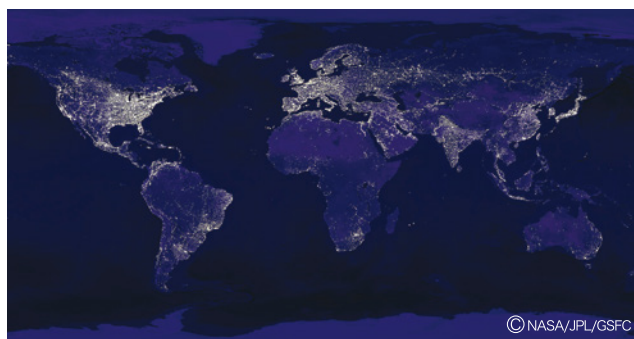


十二回目のお題

でんきを消して、 スローな夜を。

一人ひとりが自分と世界に思いを馳せる
キャンドルナイト



上の写真は、夜の地球を上空から撮影し組み合わせて作られたものです。テレビなどでこの写真を見たことのある方も多いのでは。世界の都市部に光が集中していることがわかりますが、特に日本はその地形がはっきりと判別できるほどに光っています。

電力などのエネルギーによる光は、人間の進化の証であり、日本においては経済発展の象徴でもあります。東京の夜景は世界一とも言われ、これを見た世界中の人々が感嘆のため息をもらいます。東京の夜景の美しさは日本の誇りとなりうるものです。

しかし、経済が成熟しきって停滞し、便利なものに溢れ混沌としている今、私達は必要なものとそうでないものを選択する時に来ています。あなたは上の写真を見て何を感じますか？

これまで誌面で何度かご紹介してきましたが、今年も「100万人のキャンドルナイト」の季節がきました。100万人のキャンドルナイトは、夏至の前日の6月20日から七夕の7月7日、夜8時～10時

のあいだ、みんなで電気を消して過ごそうという活動です。

地球温暖化防止の目的もありますが、それだけではありません。無理して全ての電気を消したりする必要もないし、家族に強要するものでもありません。お気に入りの音楽を聴いたり、テーブルライトだけ点けて読書をしたり、できる人が無理なく穏やかな心でいられる範囲で、過剰な電飾にまみれた日々から少しだけ離れて過ごしてみることが、この活動への参加方法です。

ろうそくの灯りで、子どもに絵本を読んであげる・恋人と食事する・ゆっくりとお風呂に浸かる…。便利な電気のスイッチをオフにすると、目に入ってくる情報を受け取るだけだった生活から切り離され、聴覚・嗅覚・触覚が研ぎ澄まされ、自分の中の新しい感覚の扉が開いてきます。五感が受け取った感覚から生まれる感情の幅も少しずつ広がっていくのを感じることができます。

いま煌々と点いている照明は、そんなに必要なものでしょうか。布団に入る直前まで四六時中、部屋の隅々まで照らしていないと本当に不便なのでしょうか。不況だ節約だと外出を控えながら、家庭内ではエネルギーを浪費していないでしょうか。

キャンドルナイトは、便利なものに囲まれた生活で影に隠れてしまった、自分の中に存在する感覚や感性を見つめる時間です。この少しの時間のなかで生まれる豊かな心と新しい発見の小さな喜び。光という便利さを手放すかわりに得られるものが、きっとあるはずです。

